



在宅醫療・介護連 携推進事業 取組狀況

「最期の時を住み慣れた場所で迎える」
という選択ができるまちを目指して

- ・日常の療養支援
- ・入退院支援
- ・緊急時の対応
- ・看取り

人生の最終段階は いつもの暮らしの延長線上にある



【事例】

79歳 男性

妻と二人暮らし（持家）

身長 172cm 体重 75kg

心身機能に支障はなく、体力・知力に自信あり

高血圧、高脂血症 服薬あり【Aクリニック】

閉塞性睡眠時無呼吸 CPAP療法【B病院】

※家庭血圧測定せず、診察時収縮時血圧140mmHg超

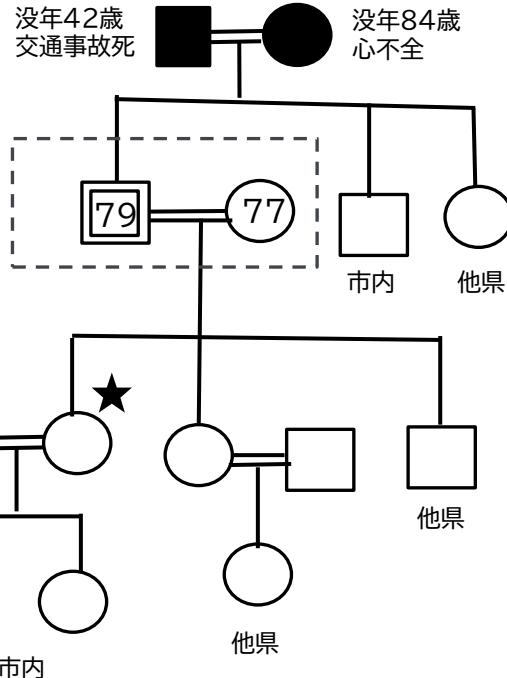
※難聴あるも補聴器使用はない

日課： ウォーキング（3km）

趣味： スキー、山登り、旅行、たまにゴルフ

その他： 地元出身

大学入学時から定年まで地元を離れていた
第2の定年は75歳、地域交流に乏しい



家族関係は良好

春・秋は妹夫婦と山登りや旅行

日帰り、泊りがけのスキーに年に数回

中学の同級生と3年前からゴルフに行くようになった



70歳 下の孫が生まれ「小学校の入学祝は出してあげたい」「一緒にスキーリゾートへ行けるかな」
ACP、遺言などについて「**まだまだ仕事してる、そんなの年寄りがすること**」

75歳 75歳を機に完全仕事を辞めた
「仕事はやめたが80歳までスキーは続けたい」「**まだまだ元気**」
「ACPなんて**縁起でもない、まだ早い**」

78歳 義弟が急逝（享年70歳）相続で揉める姿を目の当たりにする。その後長男と少し話をする機会あり
「**まだ本格的にする必要はない**」「**まだまだ元気**」「妻の方が先に逝くと思う」

79歳 1月 誕生日をスキー場で祝ってもらう
「84歳の人が滑っていた、俺も85歳までスキーを続ける」「（免許返納）**年寄扱いするな**」

2月 次女家族、長男と岐阜まで自ら運転し日帰りスキー、同日夜、長女家族も呼んで食事会
疲れた顔を指摘されるも「疲れていない」と酒盛りに参加
いつもより早く「さすがに疲れているから寝るわ」と一人で寝室へ

翌日 疲れによる体調不良の訴え 食欲なし
祝日のため応急診療所を紹介されるが「寝ていれば治る」と拒否

翌々日 かかりつけ有床診療所受診 救急車で急性期C病院へ 入院となる



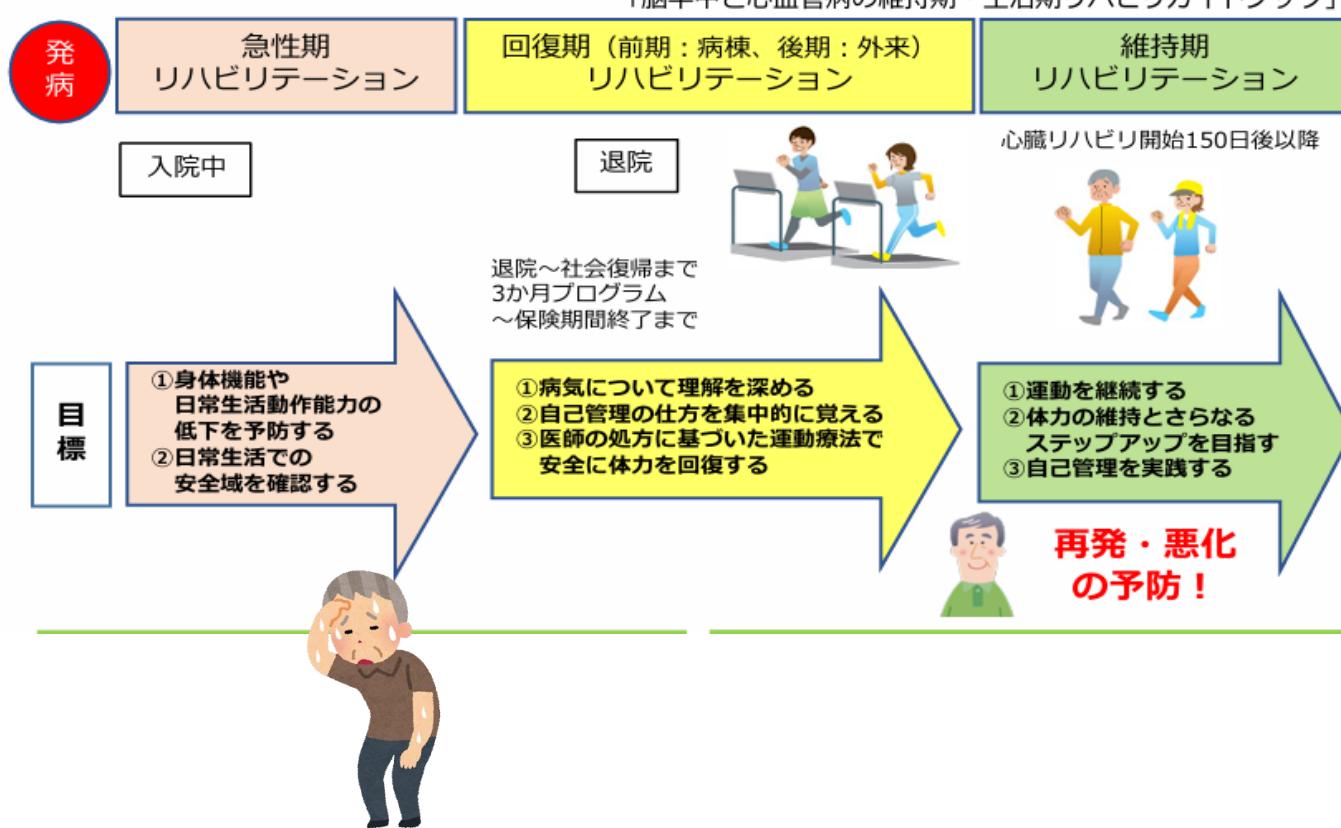
心筋梗塞（亜急性期）左冠動脈2カ所閉塞 カテーテル治療

約2週間の入院

数日の絶対安静後、心臓リハビリの開始

再発を防ぐ生活指導

★心臓リハビリの流れ



ジャパンハートクラブ編





ACP（人生会議）



「万が一」があったから考えた

子どもたちがどう思うか考えを聞いて完成させたい
言ってないことが結構あった

家族が困らないようにしたかった

お金のこと、お葬式のこと、墓のこと、妻のこと、
相続のことを整理したい

これからやりたいことを伝えたいと思った

「孫とのスキーは行きたい。前みたいに滑れなくてもいい」

「一人暮らしをはじめた大学生の孫の下宿を見に行きたい」

「家族・親戚・友人とこの先も旅行に行きたい」

・ 日常の療養支援

地域で療養を支援する

- ・今まで心筋梗塞のテレビとか見てたけど話半分だった、当事者意識大事だね
- ・急性期病院の心臓リハビリを卒業したら、かかりつけ医でリハビリしたい
- ・訪問診療もしている、受けてくれると言つてくれたので安心した
- ・血圧手帳に血圧、体重、運動量を記載、質問できるのがありがたい
- ・ウォーキング仲間ができた、励ましあいながらの会話でき毎日楽しい

・入退院支援

入退院時に本人を中心とした関係が
繋がる

地域に戻ることができる

- ・心臓リハは担当の先生からしっかり教えてもらえるし、褒めてももらえる
- ・リハビリを卒業した人がいた、すごく嬉しそうだった
- ・どんな運動をしていたか、クリニックに引き継いでくれるらしい、安心だね

- ・緊急時の対応

急変時に適切に医療につながる

- ・「命に関わる状態だった、我慢しすぎですよ」と言われた
- ・クリニックにも、救急隊にも手数をかけた、これからは必ず早めに受診する
- ・「受診の目安」が心リハ計画書に書いてあった 体重 + 2 kgで受診、理解した
- ・緊急時情報キットの内容は今の状況に書き換えた

・看取り

人生の最終段階における意思決定支援がなされる

本人が望む場所で過ごせる

- ・今の希望は、できれば自宅で最期まで過ごしたい
- ・介護が必要になったら、手続きを頼む、任せる
- ・気が変わるかもしれないから、来年のお盆に話し合いの時間を作つてほしい

日常の療養支援

- ふれあいトーク
- 職種別研修会

●ゆめはまちゃん医療・介護ネットワーク

- 相談支援
- 入退院ワーキング

入退院支援

- 多職種連携研修会
- 施設訪問

●図書館展示

- もしバナゲーム
- ACPワーキング

緊急時の対応

看取り

現在、多職種で連携できると感じていますか？

(在宅医療と介護の多職種連携研修会 事後アンケートより)

第1回(2016年8月)
参加 106名

十分できている 4%
まあまあできている 43%

47%



第32回(2025年8月)
参加 99名

十分できている 16%
まあまあできている 63%

79%



第32回研修会の様子



2040年の医療需要について

医療・介護の複合ニーズを有する85歳以上の高齢者が増加することが見込まれる。2020年から2040年にかけて、85歳以上の救急搬送は75%増加し、85歳以上の在宅医療需要は62%増加することが見込まれる。

救急搬送の増加

年齢階級別の救急搬送の件数の将来推計



2020年から2040年にかけて、75歳以上の救急搬送は36%増、うち85歳以上の救急搬送は75%増と見込まれる。

資料出所：消防庁データを用いて、救急搬送（2019年度分）の件数を集計したものを、2020年1月住民基本台帳人口で標準化した都道府県別人口で除して年齢階級別に利用率を作成し、地域別将来推計人口に適用して作成。
※ 救急搬送の1月当たり件数を、年齢階級別人口で除して作成。
※ 性別不詳については推計対象外としている。また、年齢階級別人口については、年齢不詳人口を除いて利用した。

在宅医療需要の増加

年齢階級別の訪問診療患者数の将来推計

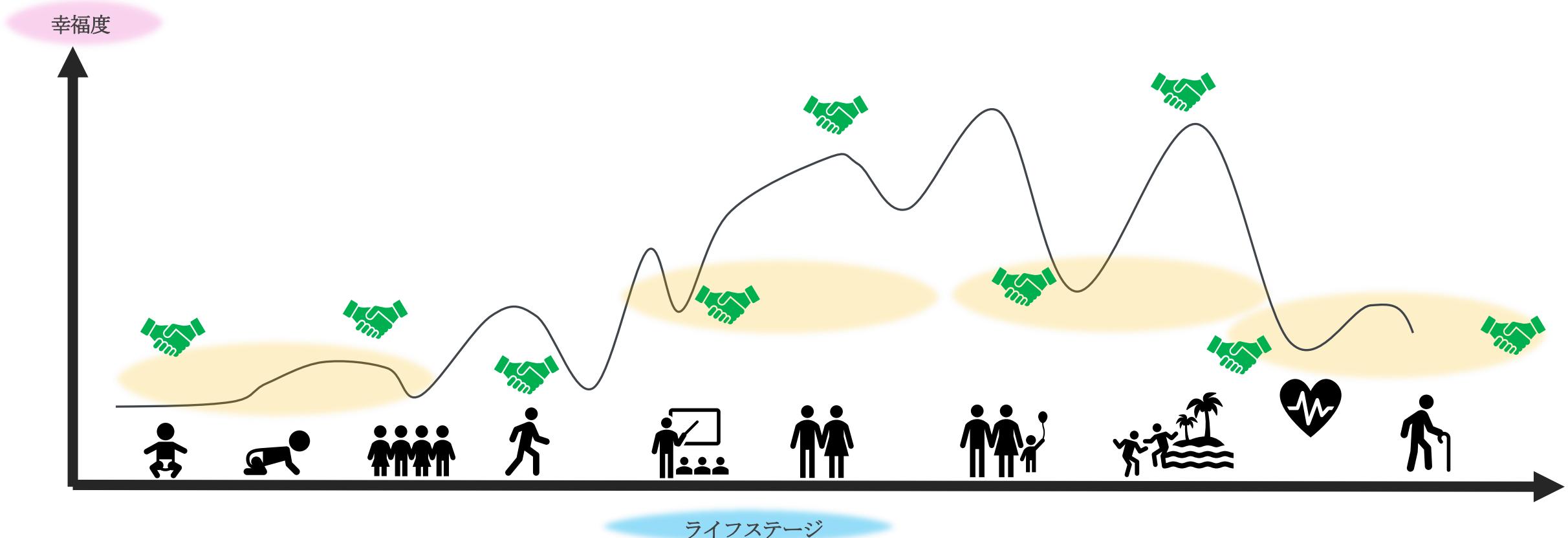


2020年から2040年にかけて、75歳以上の訪問診療の需要は43%増、うち85歳以上の訪問診療の需要は62%増と見込まれる。

出典：厚生労働省「患者調査」（2017年）
※ 地域別将来推計人口（2017年）
※ 国立社会保障・人口問題研究所「日本の地域別将来推計人口（2023年推計）」
※ 基に地域医療計画課において推計。



人生の最終段階は いつもの暮らしの延長線上にある



人生100年時代、あなたは「これから」どう生きていきたいですか

桑名市保健医療課



桑名市在宅医療・介護連携支援センター